

モデル事業名	チイキンダンカツヨウガタイヤ 地域資源活用型癒しのばんどう門前通りの形成と担い手育成事業
活動団体名	エヌビーオーホウジンマ チ ヅ ク リ サ ー ク ル オオアサ NPO 法人まちづくりサークル大麻
ホームページ	http://www.tv-naruto.ne.jp/genkinamati-ooasa/index.html
所属/ 担当者名	理事長 三浦 啓親 (みうら よしちか)
連絡先	088-689-3360 bando-kou@tv-naruto.ne.jp
活動地域	徳島県鳴門市大麻町

● 活動地域の概要

【位置図】



街角屋【一番さんの縁どころ】



【街角屋ギャラリー前】ばんどう門前通り



鳴門市大麻町は、人口 12,634 人、世帯数 4,767 で、最近 10 年間の推移は人口が 4.6%減少、世帯数は 9.2%増加し、核家族化が進んでいる。

ばんどう門前通りを含む 6 自治会のニーズ調査で、65 歳以上の世帯が半数を占め、高齢化が進んでいる実態が明らかになっている。

● 活動地域の課題

本事業によるコミュニティ創生は、四国霊場第一番札所門前町として、癒しのばんどう門前通りづくりを目指しているが、景観づくりに加えて人の交流する拠点づくりを目指したい。関係主体と協働し、街角屋「一番さんの縁どころ」「ばんどう交流館ユタカホール」の活性化を図る必要がある

● 活動の内容 (全体)

活動Ⅰ：ばんどう交流館ユタカホールの活用---交流するまちの拠点づくり

- (1) 当地の民謡 [板東音頭・四季の板東] を再発掘し、保存し育成したい。
- (2) 歴史の街にふさわしい邦楽イベントの開催
- (3) 小学校児童による「グリーンライン展覧会」

活動Ⅱ：街角屋「一番さんの縁どころ」の開設支援と交流--お接待文化の拠点づくり

- (1) 街角屋の古民家風の板壁化
- (2) 街角屋「一番さんの縁どころ」の開設支援

活動Ⅲ：エコな景観づくりと日常活動の仕組みづくり

- (1) 緑化用植木鉢 [地元特産の大谷焼] への植栽と鉢作り
- (2) アドプトプログラムによる植木鉢、「緑のカーテン」管理の仕組みづくり

活動Ⅳ：地域資源活用の交流プロジェクト

- (1) 板東エリアの「ばんどうまち歩きマップ」づくり
- (2) 板東エリアの「ばんどうまち歩きマップ」印刷
- (3) 休眠店舗活用の調査研究プロジェクト

(直近 1 年間の進捗など)

前年度からの継続事業は次の 2 事業が実施できた。

- (1) 緑化用植木鉢「地元特産の大谷焼き」への植栽
5 月に白いアジサイを植えて、通り会員から里親を募り 38 個の植木鉢を配布し事業を達成した。
- (2) 板東エリアの「ばんどうまち歩きマップ」の新版の発行
H21 年度に実施した「ばんどうまち歩きマップ」の第二弾となる、旅館・民宿・飲食店の掲載希望店を募り、来街者への情報提供として 2000 部印刷した。
- (3) 休眠店舗活用の調査プロジェクト
当地区の表玄関である JR 板東駅前にある空き店舗を中心に再生する方策について研究するため、地元大学教授

に調査依頼し報告書を得た。

これを元に業態について検討したが、当初の構想を変更し、まち案内をする情報室と軽食喫茶を併設した「板東駅前まち館」とした。

平成22年7月にオープンして業務を始めたが、3ヶ月経過した現在ようやく起動に乗りつつある。平成23年度も継続して実施する予定である。

(4) シャッターアートペインティング

国の委託事業ではないが、今年に入り、徳島街角美術館、ばんどう門前通り協議会と共催で通りの景観づくりとして2箇所実施した。

(5) まちかど新聞グリーン編集局

通りのコミュニティ作りを推進するツールとして、今年度に入り4月、7月、10月と季節ごとに発行している。現在平成23年1月号を編集集中である。

● 活動の成果

・全体

これまでの板東商店街と呼ばれていたこの地域は、立地環境の変化に対応することができず、休廃業が相次ぎ、商店街の機能を喪失した状況であったため、われわれは4年前から「ばんどう門前通り」として創生すべく取り組んでいる。

「住んでよし訪れてよし」の通りのコンセプトをもとに、エコな通り景観の整備、お接待所「街角屋一番さんの縁どころ」と「ばんどう交流館ユタカホール」では地域住民のたまり場として、また前年度開設された街角ギャラリーとの併用で、展示会やイベント、講習会などに利用されるなど、通りの新たな集会所として利用されている。

課題の解決、コミュニティの創生は、単年度事業のみでは実現し得ないが、今後続いて実施すれば、コミュニティの構築は十分可能であると考えている。

・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

上記に記述した(直年1年間の進歩など)にあるように、関連する事業の継続達成だけでなく、さらに発展した活動となっているが、地元コミュニティのみではなく来街者へのサービスや癒しを提供することによって、感動やねぎらいの言葉をいただき、さらなる活動へのエネルギーとなっている。

平成20年度、平成21年度に実施した事業は、地元マスメディアで報道されたため、「ばんどう門前通り」の知名度は確実に上がっていることを、知人や関係者との交流の中で感じている。

波及の事例は、JR四国「駅からウォーク」の企画に協力して、現地ガイドを2年続いて引き受けた。

さらに、徳島市所在のNPO理事長と外部講師が視察に来られた。

平成22年10月県教委主催の「アワコウコ楽」においては「ばんどう門前通り」のガイド研修講師として実習した。



「街角屋一番さんの縁どころ」開設後、広報なるとの表紙に掲載された。



県内の情報誌 ASA に掲載された「ばんどう門前通りが賑やかに なってきてますよ」休眠店舗活用しているテクてくまちの情報室のシャッターアート(右上写真)

● 今後の課題及び展望

・課題(活動を通して発見された課題等を記入)

活動地域は商工業者のみならず地域住民全体の高齢化が進む中で、ばんどう門前通りの形成と担い手育成は大変むづかしい課題であることがわかった。さらに核家族により通り外の地域に居住する人が増え人口減を招いている。

地域の開発計画により、定住政策に取り組むことが要求されている。

・展望(今後の取組みや検討について記入)

これまで実施したばんどう門前通り形成の活動を踏まえて、拠点を活かす活動を重視して取り組みたい。

具体的には今年度実施している JR 板東駅前まち館内の活動を次年度も継続するほか、新たに「ばんどう交流館ユタカホール」を活用して健康づくりと地域交流を目指して「カラーリング」による活動を実施できるよう研究調査を進めている。

● その他(自由記述)